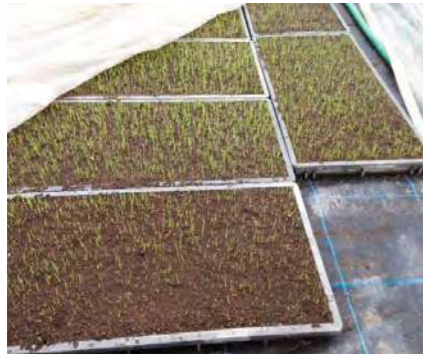


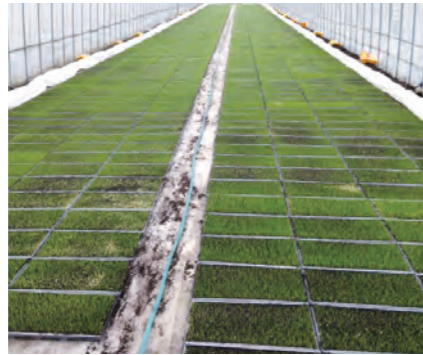
水稲育苗用ロックウールマットの効果確認試験

JAにいかっぷ

鎌田 盛行



4月24日撮影



5月13日撮影

試験目的

水稲育苗用ロックウールマットの効果確認試験

試験作物 及び品種

水稲(ゆめぴりか、ななつぼし)

試験資材 及び数量(規格)

クミアイこめパワーマット(寒冷地用) 50ケース(1,250枚)

慣行資材

軽量培土

栽培方法

播種日

4月15日

田植え

5月15日

稲刈り

9月8日

資材使用期間

4月15日～5月15日

試験区面積

約3町

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

育苗箱が非常に軽いため作業しやすい。事前に土を詰める作業が無くなり、作業量が減ることで精神的にも余裕がでる。空き時間にロックウールマットを入れられるので、土詰めのように機械も人もいらず電気代や人件費を削減出来る。田植え時は土苗と違い、育苗箱に水をかけすぎないようにした。水分が多いとマットが柔らかくなりすぎて作業しにくい。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

水管理が土苗と異なるため、灌水量が足りなかったせいか芽がそろそろまでに時間がかかった。その後も生育が遅かったため途中から灌水量を増やしたところ生育が良くなった。慣行区の土苗の方が最初の生育は良かったが、その後試験区が追いついた。試験区の方が水持ちが良く、灌水回数を減らすことが出来る。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】：育苗箱が非常に軽くなる点。土詰め作業が無くなり、作業量が大幅に減る。
【問題点】：播種時にマット1枚当たり2リットルの水をかけなければいけない点。水管理が土と異なり、慣れが必要。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

育苗箱に入れる際にマットが破けることもあるが、そのまま入れると隙間なく中に納まるため問題ない。

(5)保温効果について

土苗に比べ、ロックウールマットは水分量が多く、温度変化の影響を受けやすいと聞いたため、JAひだか東 様似地区でロックウールマットを使用している生

産者の小田さんに育苗方法を聞きに行った。外気温の低いときは、シルバーポリウと不織布を2枚掛けしていると聞き、同じやり方で育苗した。

モニター感想

苗が軽くて作業が楽であった。また育苗箱に事前に土詰めする行程や新聞紙を敷く行程が無くなり作業量も減った。3、4月はピーマンも始まり忙しいので空いた時間にロックウールマットを詰めることが出来、楽であった。

事前に説明を受け、少量からの試験的使用を提案されたが、どうせやるならハウス1棟分からはじめ、失敗できない環境下で本気で取り組まないと技術が身につかないと考えた。途中で不安になることもあったが今年は何とか通常の苗を作ることができた。水管理だけが課題であるため、来年は全量ロックウールマットに切り替え、今年の経験を活かしていきたい。

他に中古農機展示会で見た水稲用被覆資材(本州太陽シート)も導入し農作業省力化を進めていきたい。

JA担当者の感想(生産資材課 出井係長)

農作業省力化につながる良い資材であると思う。今年は上手くいったが毎年気象条件が変わるのでロックウールマット育苗経験を積み重ねていきたい。鎌田さんは研究熱心であり、使用前にホクレン同行のもと、JAひだか東 様似地区の生産者 小田さんに育苗方法を学びに行った。来年は全量切り替えるので、より良い苗が出来るように取り組み、普及拡大に向け推進していきたい。

今後の使用について

継続して使用したい。

1 高温対策

2 青虫忌避効果

3 クリンテート

4 機能的マルチ

5 育苗資材

6 酪農資材

7 省力化資材

8 その他